

乙 第 号

後藤晴栄 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

| | | | |
|---------|----------|-----|-------|
| | 委員長 | 教授 | 福島英賢 |
| 論文審査担当者 | 委員 | 教授 | 杉江和馬 |
| | 委員(指導教員) | 准教授 | 牧之段 学 |

主論文

A retrospective study of factors associated with persistent delirium

せん妄の遷延化に関連する因子についての後方視研究

Harue Goto, Takahira Yamauchi, Kazuki Okumura, Kiwamu Matsuoka,
Michihiro Toritsuka, Fumihiko Yasuno, Hideki Uemura, Kazutaka Kuki,
Manabu Makinodan, Toshifumi Kishimoto.

Psychogeriatrics. 2021 Mar; 21(2) :193-200. doi: 10.1111/psyg.12655.

論文審査の要旨

せん妄の発症に関連する危険因子については多く報告されているが、せん妄の遷延化に関しては、いまだ十分な検討はなされていない。本研究では、単一の急性期医療機関に入院中の患者で、せん妄のため精神科医が対応した 227 例を対象とし、遷延に関連する因子について後方視的に検討している。せん妄の遷延は 14 日以上持続したものと定義しており、診療録からせん妄遷延化との関連しうる要因の探索を試みた。46 例が遷延群、181 例が非遷延群であり、多変量ロジスティック回帰分析では、男性、オピオイド鎮痛薬使用、非オピオイド鎮痛薬使用、来院時の血清 Na 低値でないことが、せん妄遷延化に独立して関連していた。公聴会では、患者背景因子の影響の程度や、因子としてあげられた軽度低 Na 血症の意義などが議論された。また研究の限界点として、鎮痛剤の関連が明らかとなったものの、疼痛評価は実施できていなかったことについては、今後の課題として挙げられた。いずれも的確な考察のもとに適切な回答を得ることができ、学位研究の成果が認められた。本研究は急性期医療機関の一般病棟に入院となった患者に生じた、せん妄の 14 日間という比較的短期間の遷延化に関連する要因について検討した研究であり、高齢化社会における急性期医療に貢献する新規性も有していることから、博士（医学）の学位に値すると評価できる。

参 考 論 文

1. せん妄の遷延化に関連する因子についての検討
後藤晴栄, 山内崇平, 松岡究, 上村秀樹, 安野史彦, 岸本年史
最新精神医学 2018; 23(3): 229-235.
2. 悪性腫瘍における終末期の精神的苦痛に対して回想法が有効であった統合失調症の一例
後藤晴栄, 安野史彦, 小坂淳, 岡田光司, 岸本年史
精神科 2013; 23(3) : 376-380.
3. Colonic adenocarcinoma に発生した colonic morule の一例
殿村(後藤)晴栄, 榎本泰典, 山岡健太郎, 武田麻衣子, 笠井孝彦, 野々村昭孝
Journal of Nara Medical Association 2009; 60(5-6): 189-194.
4. The membrane proteinase 3 expression on neutrophils was downregulated after treatment with infliximab in patients with rheumatoid arthritis.
Matsumoto T, Kaneko T, Seto M, Wada H,
Kobayashi T, Nakatani K, Tonomura (Goto) H,
Tono Y, Ohyabu M, Nobori T, Shiku H,
Sudo A, Uchida A, Kurosawa D J S,
Kurosawa S
Clin Appl Thromb Hemost 2008; 14(2): 186-192.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学の進歩に寄与する
ところが大きいと認める。

令和3年12月14日

学位審査委員長

救急病態制御医学

教授 福島英賢

学位審査委員

臨床神経筋病態学

教授 杉江和馬

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

准教授 牧之段 学